

# 刊行にあたって

審美歯科治療に対する患者の関心は高く、また要求も多岐にわたることから、そのニーズに応えるため、われわれは新しい技術、機器・材料をつねにアップデートしなければならない。また、科学的根拠に基づく医療の必要性もますます高まっていることから、知識や情報の収集、整理にもエネルギーを割くこととなる。

そのようななか、審美歯科治療を安全・確実に行うための基本を、臨床上の疑問に答えるかたちで提示する Q&A 方式でまとめられた一冊で理解することは、その後の研鑽にもおおいに役立ち、また歯科医師としての生涯学習を継続させるモチベーション形成にも寄与するものと考え。このような趣旨でデンタルダイヤモンド社から出版された『審美修復 ここが知りたい Q46』が好評を博し、14 年が経過した。この間に、CBCT がインプラント治療の強力なパートナーとなり、補綴では光学印象が登場し、MI の概念の根幹をなす接着が飛躍的に進歩を遂げ、審美的な矯正装置によって動的処置期間も QOL の維持に配慮されるようになった。こうした背景から、日常臨床に関する新たな疑問もまた増えているなか、審美歯科治療に関する疑問や質問をピックアップし、「補綴」、「修復」、「インプラント」、「矯正」それぞれの分野のなかで、焦点を絞った解説を試みたのが本書である。

加えて、超高齢社会を迎えた現在、高齢者への審美歯科治療をどう捉えるかといった課題もある。もちろん、健康寿命の延伸に伴い、大がかりな補綴治療、インプラント治療、矯正治療を希望するケースが増えることも考えられる。なかには治療に対する時間と費用に制約があるが、素敵な微笑みで生活したいと、歯科治療を求める方がおられることも事実である。さまざまな点を踏まえ、MI コンセプトに基づく歯科治療を意識しながら、本書全体を構成した。

かつて保険外診療の代名詞であった審美歯科治療は、徐々に保険診療の枠組みにも入るようになり、超高齢社会における審美歯科治療にも対応が求められる時代を迎えている。審美歯科治療はインターディシプリナリーアプローチが必要とされることから、本書で取り上げた内容を入口として、さらに守備範囲を拡大することが必要となる。その道先案内役を担うことができればと、切に願う次第である。

2019 年 9 月  
編集委員一同